

今後の雨水整備について

1. 背景

近年、降雨の局地化・集中化・激甚化や、都市化の進展等に伴い多発する浸水被害が全国的な問題となっており、本町においても、以前は発生しなかった箇所での道路冠水や、浸水被害の発生頻度・範囲の拡大が想定される状況にあり、浸水対策に向けた事前防災・減災のための雨水管理総合計画の策定が必要となっている。

2. 国の動き（法改正・事務連絡）

令和3年 下水道法を含む「流域治水関連法案」公布・施行

- ・流域全体を俯瞰し、あらゆる関係者が協働する「流域治水」の実現
- ・雨水管渠を所管している全ての団体において、想定最大規模降雨に対する区域の指定が義務付け
⇒ 熊取町該当

内水浸水想定区域図の作成が必要

12月 国土交通省 事務連絡（国交付金の配分対象の追加）

令和8年度以降の下水道事業に基づく雨水整備事業は、想定最大規模降雨の内水浸水想定区域図作成済みであること

⇒ 令和7年度末（令和8年3月）までの作成が条件

3. 本町下水道事業のこれまでの雨水整備

平成3年から5年

浸水被害のあった大久保地区において、地蔵川雨水幹線整備
（大阪外環状線側道から熊取西交差点）

その後、大規模な浸水被害が発生していないため、町事業では汚水優先で整備

令和4年

雨水整備の業務一元化の組織改編（下水道河川課・河川農水室）

4. 雨水対策から雨水管理へ

全国的に従来の浸水対策は、浸水被害が発生した地域での、事後対応を中心とした整備がほとんどであったが、近年では「事前防災・減災」等の観点から、内水浸水リスクを評価した上で、優先度の高い地域を中心とした計画的な対策を実施する方向に、転換されている。

※ 内水浸水とは

- ・大雨時に水路や下水道管の処理能力を超えて水が溢れ、低地などが浸水すること
- ・外水（河川氾濫）に比べ
 - 「発生頻度が高い」
 - 「浸水被害の発生までの期間が短い」
 - 「河川から離れた地域でも被害が発生」などの特徴がある

5. 内水浸水想定区域図（内水浸水リスクの評価）

対象区域：1,328ヘクタール 下水道全体計画区域（近畿自動車道より下流）
 想定降雨：計画降雨 56 mm/時間 10年確率
 （3パターン） 既往最大降雨 67 mm/時間 過去の最大降雨
 想定最大規模降雨 147 mm/時間 1,000年確率
 確認データ：「浸水区域」「浸水深さ」「浸水継続時間」
 財源：国補助率 1/2
 作成期限：令和7年度末（国事務連絡）
 近隣市町：作成済 4市町 「岸和田市」「貝塚市」「泉佐野市」「田尻町」
 未作成 4市町 「熊取町」「泉南市」「阪南市」「岬町」

6. 内水ハザードマップ

内水ハザードマップは、内水浸水発生時に、住民等が自主的に避難行動等を起こすことができるよう作成するもの。

「想定最大規模降雨」のデータを用いて、浸水に関する情報の他、避難に関する情報等も掲載し公表。

記載項目（例）

- 1) 浸水に関する情報
 - ・「想定最大規模降雨」における浸水範囲、浸水深（床上浸水・床下浸水の区別）
 - ・対象降雨（1時間最大雨量）
 - ・気象情報・警報の内容 など
- 2) 避難に関する情報
 - ・避難場所
 - ・避難時危険箇所（地下道・アンダーパス・大きな水路）
 - ・避難情報 など

7. 雨水管理総合計画

雨水管理総合計画は、内水浸水リスクを踏まえ、下水道による浸水対策を実施すべき区域や整備水準、整備方針等の基本的な事項を定め、効率的かつ総合的な浸水対策の実施を図るための計画。

計画で定める主な事項

- ・浸水対策を実施すべき区域 …… 「どこを」
- ・浸水対策の目標・整備水準 …… 「どの程度」
- ・計画期間や段階的な対策 …… 「いつまでに」

8. 今後のスケジュール（案）

業務内容		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
5	内水浸水想定区域図作成				
6	内水ハザードマップ作成・公表				
7	雨水管理総合計画作成				

○ 雨水整備フロー図

